

現代韓国語の終結語尾-ci(yo) [-지 (요)] の多義性

文 彰 鶴

The aim of this paper is to investigate the polysemy of sentence-ending suffix -ci(yo) in Korean, with special attention to the certainty of knowledge. Basically, -ci(yo) in declaratives expresses “knowledge(the information which the speakers have known already)”, which is classified into the two types “certain knowledge” and “uncertain knowledge”. The two types of -ci(yo) in “yes-no questions” is extended from “certain knowledge” and “uncertain knowledge” in declaratives. -ci(yo) in *wh*-questions is extended from “uncertain knowledge” in declaratives. -ci(yo) in imperatives, propositionals and volitionals is extended from “certain knowledge” in declaratives.

キーワード：終結語尾, -ci(yo) [-지 (요)], 文の類型, 多義性, 確信度

1. はじめに

現代韓国語においては、文末に終結語尾¹という形式群がある。そのうち, hay (yo)² [해 (요)] 体³の終結語尾-ci(yo) [-지 (요)]⁴は、次のように平叙文 ((1)), 疑問文 (真偽疑問 [yes-no疑問] : (2), 説明疑問 [wh疑問] : (3)), 命令文 ((4)), 勧誘文 ((5)), 意志文 ((6)) として使われるなど、様々な意味・機能を持っている。

(1) 그분이 우리 담임선생님이시었_지. [平叙文] (한길2004 : 133)

(その方が私たちの担任先生でした。)

(2) 너는 순이를 사랑하_지? [真偽疑問] (한길2004 : 135)

(君はスニを愛しているだろう?)

- (3) 그래서 그날 네가 몇 시에 왔었⁴? [説明疑問] (장경희1985 : 122)
(それで, その日君は何時に来た?)
- (4) 나 좀 도와 주⁵. [命令文] (한길2004 : 135)
(私ちょっと手伝ってくれ。)
- (5) 우리 같이 산에 가⁶. [勧誘文] (한길2004 : 135)
(私たち一緒に山に行こう。)
- (6) 내가 설명하⁷. [意志文] (한길2004 : 133)
(私が説明する。)

従来の研究において上のような지 (요) の多義性を分析するために様々な議論がなされてきたが, まだ十分な解明には至っていないように思われる。そこで, 本稿では現代韓国語の終結語尾지 (요) を取り上げ, 意味・機能間の関連性について考察していきたい。

2. 先行研究と問題のありか

先行研究では지 (요) の多様な意味・機能を分析するに当たって, 一般に基本義を規定し, その基本義からの拡張関係で多義性を説明している(한길2004, 장경희1985, 박재연2006, 윤석민2000, 이익섭2005, 이익섭·채완2000, 남기심2001など参照)。本節では, 先行研究のうち, 지 (요) の基本義を「親密感」と規定する한길 (2004) と「既に知っている内容を表す」と規定する장경희 (1985) を検討する⁵。

まず, 한길 (2004 : 131-138) では지 (요) の多様な意味・機能には共通して「親密感」の意味があるとしている。確かに, 「親密感」を表す지 (요) の文も多い。しかし, 지 (요) の文には次のように「親密感」が感じられない例もある。

- (7) (夫婦喧嘩で)
“그토록 애달픈 상상력은 도대체 어디서 비롯된 거지?”
(そんな悲しい想像力は一体どこから生まれたの?)
“물론 당신이⁸.” [미란⁶]
(もちろん, あなたですよ。)
- (8) “한선생님께서 해설을 써주셨으면 해서요.” …略…

(ハン先生に解説を書いていただきたいと思ひましてですね。)

“해설요? 해설은 원래 비평가가 써야 하는데, ……모처럼 부탁하신 일이니, 한번 써보^ㄴ다.” [들개]

(解説ですか。解説はもともと批評家を書くべきですけど、……せっかくのお願いですので、一度書いてみましょう。)

(7)の지 (요) の文は相手の質問に対して返答する平叙文であるが、夫婦喧嘩で知っているべきことを知らない相手を非難するニュアンスを帯びる。そして、(8)の지 (요) の文は相手のお願いを受け入れる意志文であるが、高圧的で恩着せがましいニュアンスを帯びる。このように지 (요) の文は文脈や命題内容、イントネーションなどによって、「親密感」だけではなく様々なニュアンスが感じられる。このような点から지 (요) の基本義を「親密感」で規定するには無理があるように考えられる。

次に, 장경희 (1985: 108-124) では지 (요) の基本義を「既に知っている内容 (以下「知識表明」とする)」を表すとしている。しかし, 疑問文 (真偽疑問と説明疑問) の지 (요) については確認要求, 再確認, 思案という意味用法の指摘に留まっており, 「知識表明」から疑問文への拡張関係に関する分析は見られない。そして, 意志文, 勧誘文, 命令文の지 (요) については「知識表明」の「思惟的な, 不確かな情報」からの拡張として説明しているが, やはりニュアンスの指摘に留まっており, 具体的な言語現象の分析はない。

本稿では, 지 (요) の基本義を「知識表明」と規定するという点では, 基本的に장경희 (1985) と同じ立場である (詳細は3節)。しかし, 장경희 (1985) では不十分であった, 基本義からの拡張関係を説明するために, 本稿では「知識 (表明)」が確信度の観点からスケールを持っている点に注目し, 分析を試みる。

3. 平叙文の지 (요)

終結語尾지 (요) は話し手の判断を述べ立て, 聞き手に情報を伝える平叙文として用いられる場合がある。ただし, 平叙文의지 (요) は述べ立てる内容において次のような意味的な特徴があり, 終結語尾네 (요), 군 (요) と対立的な振る舞いを見せる。

- (9) 이미 알고 있었는데, 순이 예쁘[지]/*네/*군요. (신선경2001 : 71一部改変)
 (前から知っていたけれど, スニ, きれいです。)
- (10) 모르고 있었는데, 이제 보니 순이가 아주 예쁘[*지]/네/군요.
 (知らなかったけれど, 今見ると, スニがとてもきれいですね。)(신선경2001 : 71一部改変)

(9)のように文の内容が「既に知っている内容(下線参照)」である場合は, 지(요)は自然で, 네(요)と군(요)は不自然である。しかし, (10)のように文の内容が「発話時に知覚した内容(下線参照)」である場合は, 지(요)は不自然で, 네(요)と군(요)は自然である。従来の研究においては, このような言語現象に基づいて지(요)は「既に知っている内容」を表し, 네(요)と군(요)は「発話時に知覚した内容(以下「知覚表明」とする)」を表すと指摘している。(박재연2006, 신선경2001, 손현선1998, 장경희1985など参照)。このような言語現象に関する見解については, 本稿でも先行研究と同じ立場である。このことは次のような言語現象からも支持されるだろう。

次のように平叙文の지(요)は確信度を表す叙法副詞との共起関係においても「知覚表明」を表す네(요), 군(요)と対立的な振る舞いを見せる。

- (11) “운전사한테 물어보지 않고 그랬습니까?”
 (運転手に聞いてみなかったんですか?)
 “물론, 운전사한테 물어보았[지]/??네/??군요.” [경마]
 (もちろん, 運転手に聞いてみましたよ。)
- (12) “내가 그 사람을 만난 것은 아마 종로경찰서에서였[지]/??네/??군...
 고등계 형사실에서였을게야.” [겨울]
 (私がその人に会ったのは, たしか 鐘路警察署だったな。…高等系警察室だったんだろう。)

(11)と(12)は確かさを表す「물론(もちろん)」と不確かさを表す「아마(たしか, たぶん)」との共起において⁷지(요)は自然であるが, 네(요)と군(요)は不自然である。つまり, 「물론(もちろん)」と「아마(たしか, たぶん)」という叙法副詞は「知識表明」の文とは共起できるが, 「知覚表

明」の文とは共起できないのである。

以上のような言語現象は次のように説明できる。まず、話し手は発話時に初めて知覚で捉えた、未知の事態や情報についてはどのように理解してよいか分からず、確信度、つまり確か、あるいは不確かで位置づけることはまだできない状態だろう。そこで、「知覚表明」の文では確信度を表す叙法副詞⁸とは共起できないわけである。一方、話し手は既に知識として定着している内容に対しては記憶が鮮明な場合は確かな情報として、また記憶が不明な場合は不確かな情報として位置づけることができるだろう。そこで、「知識表明」の文は確信度を表す叙法副詞と共起できるわけである。このような言語現象からも、지 (요) は「知識表明」を表し、네 (요) と군 (요) は「知覚表明」を表すと考えるのは妥当であることが示唆される。

ここで、지 (요) の平叙文には確信度の観点から確かな知識を表す場合もあり、不確かな知識を表す場合もあるという点に注目する。例えば、(11)と(12)は双方とも지 (요) の「知識表明」の文である。しかし、(11)は「물론 (もちろん)」という副詞から分かるように確かな知識を表す文であり、(12)は「아마 (たしか、たぶん)」という副詞から分かるように不確かな知識を表す文である。

さらに、「물론 (もちろん)」と共起可能な지 (요) の文は次のように当為性を表す「당연히 (当然)」⁹という副詞とも共起できる。

- (13) “장래에 배우자로 당신을 무서워하는 사람이 좋은가요, 당신을 무시하는 사람이 좋은가요.” (将来, 配偶者としてあなたを怖がる人が良いですか, それともあなたを無視する人が良いですか。) [황만근]
 “당연히/물론 일대일로 평등한 관계로 대해주는 사람이 좋지/??네 /??군요.”
 (当然/もちろん, 一対一で平等な関係で接してくれる人が良いです。)

(13)で「물론 (もちろん)」が「당연히 (当然)」に置き換え可能なことから分かるように確かな知識を表す지 (요) の文は話し手にとって妥当で望ましいと思われる内容を表すこともできる。

そして、次のように지 (요) の文が疑問詞を伴っていても、疑問文とは見なせない場合がある。

- (14) (写真とテープをどこにしまっておいたかが分からず, 探し物をして
いる)

“이상하다. 어디 갔[?]/?[?]/[?]?” [사생활]

(おかしいな。どこに行ったんだろう。)

(14)は文末が下降調であり独話で使われており, 聞き手に問いかけるという疑問文の機能は持っていない。このような場合は過去に知っていた内容の一部を忘れて, それを思い出そうとする意味を表す。つまり, 命題内容の一部が不明になり, その不確かな知識(記憶)を問いかけず, 疑いとして述べて立てている。このように不確かな知識を表す지(요)の文には(12)のように命題全体が不確かな場合もあるが, (14)のように命題内容の一部が不確かな場合もある。

以上の内容から, 平叙文の지(요)の意味・機能は, 次のようにまとめることができる。

- (15) ① 平叙文の지(요)は「知識表明」つまり, 「話し手が既に知っている内容」を表す。
② 平叙文の지(요)が表す「知識表明」は, 確信度の観点からすると【確かな知識】を表す場合もあり, 【不確かな知識】を表す場合もある。

次節からは平叙文の지(요)の意味・機能(15)②に注目して, 지(요)の拡張関係を分析する。

4. 疑問文の지(요)

終結語尾지(요)は上昇調を伴い, 話し手が疑っていること(以下「疑い」とする)を聞き手に問いかける(以下「問いかけ」とする)疑問文として用いられる場合がある¹⁰。このことは次のように지(요)の文が습니까, 어요の通常の疑問文と共通した機能を持っていることから確認できる。

- (16) “저는 불문과를 다녀요. 수지씨는 사학과를 다니[조/ㅁ니까/어요]?”
[나비].

(私はフランス語科に通っています。スジさんは史学科に通っていますか?)

“네, 그래요/아니요, 그렇지 않아요.”

(はい, そうです。/いいえ, そうではありません。)

(17) (電話の相手に)

“실례지만, 거기가 어디이^ㄴㅁ니까/어^ㅁ요?” [상상]

(失礼ですが, そちらはどこですか?)

“우진동인데요.”

(ウジンドンですが。)

습니까, 어요の文と同様に, (16)の지 (요) の文は真偽疑問文としてyes-no形の応答(下線)を要求しており, (17)の지 (요) の文は説明疑問文として疑問詞に対する説明の応答(下線)を要求している。しかし, 지 (요) の疑問文は通常の疑問文とは異なる特徴も持っている。

4.1 真偽疑問文の지 (요)

まず, 真偽疑問文においては次のように選択疑問文の可否が異なる。

(18) 수지씨는 사학과를 다니^ㅁㅁ니까/어^ㅁ요, 아니면 사회학과를 다니^ㅁㅁ니
까/어^ㅁ요?

(スジさんは史学科に通っていますか, それとも社会学科に通っていますか?)

(19) *수지씨는 사학과를 다니^ㅁㅁ, 아니면 사회학과를 다니^ㅁㅁ?

(スジさんは史学科に通っていますよね, それとも社会学科に通っていますよね?)

(20) *수지씨는 사학과를 다^ㅁㅁ다, 아니면 사회학과를 다^ㅁㅁ다.

(スジさんは史学科に通っています, それとも社会学科に通っていません。)

(18)の通常の文の場合は選択疑問文が可能である。これは通常の真偽疑問文が真偽の選択において中立的であるからである。しかし, (19)の지 (요) の文の場合は(20)の平叙文と同様に, 選択疑問文が不可能である。これは, 平叙文のように지 (요) の疑問文が中立的ではなく, 真の方に傾いているこ

とを示唆している¹¹。このような特徴から分かるように, 지 (요) の真偽疑問文は平叙文の特徴を持ち合わせており, 話し手にとって真として判断が決まっている命題内容を述べ立てながら, 聞き手に問いかけることによって確認を求める, いわゆる「確認要求」の意味を表す。さらに言えば, これには次のように二つのタイプがある。

- (21) (相手とお金の所在に関する記憶が異なって)

“봐, 내 말대로 돈 여기 있?”

(ほら, 私の言った通り, お金, ここにあるだろう?)

- (22) (相手から, ビザの期限について, 数か月前に聞いて)

“채영주씨, 당신 멀티 비자도 이제 만기일이 지났?” [너를]

(チェヨンジュさん, あなた, マルチビザももう期限切れているでしょう?)

(21)は話し手が確かな知識(記憶)を述べ立てながら, 聞き手に問いかけ, 確認を求めている(括弧の説明と下線参照)。そして, (22)は話し手が不確かな知識(記憶)を述べ立てながら, 聞き手に問いかけ, 確認を求めている(括弧の説明参照)。確認の対象が, (21)のように話し手の確かな知識である場合は押し付けるようなニュアンスを帯び(以下「確かな知識の確認要求」とする), (22)のように話し手の不確かな知識である場合は確定化するようなニュアンスを帯びる(以下「不確かな知識の確認要求」)。

この二つのタイプの지 (요) の真偽疑問文(確認要求)における, 「確かな知識」あるいは「不確かな知識」を述べ立てるという特徴は平叙文の지 (요) と共通している。本稿では, このような点に注目して, 基本的に「確かな知識」あるいは「不確かな知識」を述べ立てる平叙文の지 (요) が語用論的な文脈によって確認要求の意味・機能に移行すると考える。例えば, (21)において, 話し手にとっては確かな知識であっても, 当該の命題に対して聞き手との共通認識に達していないという文脈では自然に聞き手に確認を求める必要が生じる。また, (22)において, 当該の命題に対して話し手は不確かであり, その不確かな知識をよく知っていると見なされる聞き手が発話現場にいるという文脈では自然に聞き手に確認を求めることになる。

以上で述べたように, 真偽疑問文の지 (요) は「確かな知識」, あるい

は「不確かな知識」を述べ立てるという点において平叙文の지 (요) と共通している。このような知識を述べ立てる平叙文の지 (요) が語用論的な要因によって真偽疑問文の지 (요) (つまり「確認要求」) へ拡張したと考えられる。

- 23) 平叙文の지 (요) ——拡張——> 真偽疑問文の지 (요)
 【確かな知識】 ——拡張——> 【確かな知識の確認要求】
 【不確かな知識】 ——拡張——> 【不確かな知識の確認要求】

4.2 説明疑問文の지 (요)

次は지 (요) の説明疑問文と습니까, 어요の通常の説明疑問文との違いについて述べる。両者は次のように使用状況において少し異なる点がある。

- 24) (一人で部屋に入ったら、寝ているミンスがいる。そして、その隣に
 チョルスがいる。)
 철수 씨, 민수 씨가 왜 여기 있[ㅁ]/습니까/어요?
 (チョルスさん、ミンスさんがなぜここにいますか?)
 25) (チョルスと一緒に部屋に入ったら、寝ているミンスがいる。)
 철수 씨, 민수 씨가 왜 여기 있[ㅁ]/??습니까/??어요?
 (チョルスさん、ミンスさんがなぜここにいるんですかね?)

24)と25)の文の内容は全く同じであるが、文脈が少し異なる。24)では話し手は聞き手(チョルス)がミンスと一緒にいるから、ミンスがここにいる理由を知っており、話し手の疑問に答えうると想定している。このような場合は지 (요) の文と通常の文、双方とも自然である。ただし、지 (요) の文の方が少々丁寧で親密感が感じられる。一方、25)では話し手は聞き手(チョルス)と一緒に部屋に入ったので、聞き手もミンスがここにいる理由は知っておらず、話し手の疑問に答えうるとは思っていない。このような場合は지 (요) の文だけが自然である。このような使用状況の違いは次のような両者の特徴を示唆する。通常の説明疑問文は、話し手の疑問に答えうると想定している点から分かるように、話し手の疑問に対する何らかの情報を聞き手から引き出そうとし、聞き手に応答を強制する。これに対

して, 지 (요) の説明疑問文は, 話し手の疑問に答えうると想定していない点から分かるように, 聞き手に対して問いかけることを意図せず, 疑いを述べ立てるだけであり, 聞き手に応答を強制しない(以下「応答を強制しない説明疑問文」とする)。このような相手に応答を強制しないという 지 (요) の説明疑問文の特徴が動機となり, 24のように話し手の疑問に対してよく知っていると思なされる聞き手が発話現場にいるという文脈であっても, 지 (요) の文の方が丁寧で親密感が感じられると思われる。

このことは次のような使用状況の違いにも反映されていると思われる。

- (26) (指示もしていない報告書をいきなり部下から提出された上司)

도대체, 이게 뭐 [쪼] [바나까] [아요]?

(一体, これは何ですか?)

- (27) (指示通りにできていない, 部下の報告書を見て, 叱責する上司)

도대체, 이게 뭐 [??] [쪼] [아] [바나까] [아요]?

(一体, これは何ですか?)

(26)では話し手(上司)がいきなり出された報告書を見て, その正体について聞き手(部下)に説明を求めている。一方, (27)では説明を求めているよりは, 指示通りにできていないことについて聞き手を叱責している。つまり, (26)は本来の説明疑問文であるが, (27)は反語文として用いられて, 話し手が聞き手に伝える情報(「報告書が指示通りにできていない」)を強調している。(26)のような本来の説明疑問文の場合は 지 (요) の文と通常の文, 双方とも自然である。しかし, (27)のような反語文の場合は通常の文だけが自然である。反語文は, 聞き手に伝える情報を強調するのが基本的な機能であると考えられる¹²⁾。つまり, 反語文においては聞き手めあて性が重要であり, 説明疑問文が反語文として使われるためには「疑い」を述べ立てるだけでは足りず, 疑問を聞き手に問いかけることが必要なのである。そこで, 聞き手に問いかけることを意図しない 지 (요) の説明疑問文は, 反語文として使われにくいのである。

上で見たように, 説明疑問文の 지 (요) における, 「疑問詞を伴いながら, 問いかけず疑いを述べ立てる」という特徴は, 3節で述べた平叙文の「不確かな知識」(のうち, 「命題の一部が不確かな知識」)の特徴(用例(14)の説明参照)と共通している。このような「不確かな知識(つまり「疑い」)

を述べ立てる平叙文の지 (요) が語用論的な要因によって、説明疑問文の지 (요) へ拡張したと考えられる。

- (28) 平叙文の지 (요) ————拡張————> 説明疑問文の지 (요)
 【不確かな知識】 【応答を強制しない説明疑問文】

5. 命令文・勧誘文・意志文の지 (요)

終結語尾지 (요) は、聞き手に行為を要求する命令文と勧誘文、あるいは話し手の意志を述べ立てる意志文として使われる場合もある。このことは次のように지 (요) がそれぞれの通常の形式に置き換え可能なことから分かる。特に、지 (요) の文が勧誘文、命令文として使われる場合は、通常の形式と同じ応答の仕方をするところからも確認できる。

- (29) (相手にお酒を勧める)
 “안 돼요. 전 술 못 마셔요.”
 (だめです。私は、お酒、飲めません。)
 “한 잔만 드시[죠타요 / 드시오].” [사슴]
 (一杯だけ、飲んでください。)
 “알겠습니다.”
 (分かりました。)
- (30) “보시면 알겠지만 우리 집에 피아노가 없어요. 중고 피아노 한 대 사려구요.”
 (ご覧になると分かると思いますが、私の家にピアノがありません。中古ピアノを一台買おうと思ってですね。)
 “제가 아는 데가 있으니까 같이 가[죠타요 / 드시다].” [노래]
 (私が知っているところがありますので、一緒に行きましょう。)
 “알겠습니다.”
 (分かりました。)
- (31) “김이정 씨가 한국에 오면 연락을 좀 해주시겠습니까?”
 (キムイジョンさんが韓国に来るとご連絡いただけますか?)
 “중습니다. 연락을 드리[죠타요 / 드립니다].” [전우치]
 (良いです。ご連絡差し上げます。)

지 (요) が, (29)では通常の命令形式어요, 으십시오に置き換え可能であり, (30)では通常の勧誘形式어요, 읍시다に置き換え可能である。特に, 지 (요) の文が通常の命令文と勧誘文と同様に「알겠습니다 (分かりました)」という服従の形をとることから聞き手に行為を要求する機能を持っていることが確認できる。そして, (31)では지 (요) が通常の意志形式겠습니다に置き換え可能である。

しかし, これらの지 (요) の命令文, 勧誘文, 意志文はそれぞれの通常の文とは使用状況において少し異なる点がある。

5.1 命令文의지 (요)

まず, 命令文について検討する。

- (32) 上司 : 내일 아침에 회의가 있으니 빨리 오{??지요/아요/잡시오}.
- (明日の朝, 会議がありますので, 早く来てください。)
- 部下 : 네, 알겠습니다.
- (はい, 分かりました。)
- (33) 母親 : 학교 끝나면 다른 데 가지 말고 곧바로 집으로 오{??지/아/아라}.
- (学校が終わったら, 他のところに寄らず, すぐ家に帰ってきてね。)
- 息子 : 네, 알았어요.
- (はい, 分かりました。)

(32)と(33)は話し手が聞き手に行為を指示する状況である。(32)では聞き手(部下)に「明日, 早く来る」ことを, (33)では聞き手(息子)に「学校が終わったらすぐ帰ってくる」ことを指示している。このような指示する文脈では, 通常の命令文は自然であるが, 지 (요) の命令文は不自然である。

- (34) 息子 : 엄마, 내일 철수 집에 놀러 가도 돼요?
- (お母さん, 明日, チョルスの家遊びに行ってもいいですか)
- 母親 : 가고 싶으면 가{??지/아/라}.
- (行きたければ行って。)

そして、(34)では聞き手の許可求め（「明日、チョルスの家に遊びに行く」）に対して、許可を与える状況である。このような許可を与える文脈でも、通常の命令文は自然であるが，지 (요) の命令文は不自然である。

(35) (夕食の時，最近，太り気味の息子とそれを心配している母親)

息子：엄마, 한 그릇 더 주세요.

(お母さん，もう一杯下さい。)

母親：살찌는데 그만 먹[지][요][라].

(太るからもうやめて。)

(35)では，話し手にとって，当該事態（「お變わりをやめる」）が聞き手に妥当で望ましいと思い，聞き手に提案する状況である。このように，妥当なことを提案する文脈では，通常の命令文と지 (요) の命令文，双方とも自然である。ただし，지 (요) の命令文の方が，少々丁寧で，親密感が感じられ，意味的には「～는 것이 어때 (요)? (～たらどうですか)/～는 것이 나올 것 같은데 (요) (～ほうが良いと思いますけど)」に置き換えることができる（以下「提案調の命令文」とする）。

このような現象は，通常の命令文は聞き手に行為の実行を強制する機能を持っているが，지 (요) の命令文は聞き手に行為の実行を求めることを意図せず，話し手にとって妥当で望ましいことを述べ立てるだけである，という点を示唆している。このような違いから，通常の命令文は指示，許可与え，提案などの使用状況に関係なく使えるが，지 (요) の命令文は強制力の要る，指示や許可与えのような場面では使えず，強制力の要らない提案のような場面でのみ使えるのである。このような지 (요) の命令文を使うことによって，聞き手に行為の実行を要求するような語用論的な文脈であっても，聞き手に行為の実行を強制しないという聞き手への配慮から，丁寧さや親密感のニュアンスを帯びてくる。

上で見たように，지 (요) の命令文における，妥当で望ましいことを述べ立てるという特徴は，3節で述べた平叙文の「確かな知識」（用例(13)の説明参照）の特徴と共通している。このような「確かな知識」を述べ立てる平叙文の지 (요) が，聞き手が当該行為を実行するような語用論的な文脈になると自然に命令文の意味・機能に移行すると考えられる。

- (36) 平叙文の지 (요) —— 拡張 ——> 命令文の지 (요)
 【確かな知識】 【提案調の命令文】

5.2 勧誘文의지 (요) と意志文의지 (요)

次は、勧誘文について検討する。

- (37) (職場で同僚同士)

A : 오후에 바쁘세요?

(午後、お忙しいですか?)

B : 안 바쁘네요.

(忙しくないですけど。)

A : 내일 회의가 있는데, 회의 준비 좀 같이 하{ (?) 조/여요 }.

(明日、会議があるけど、会議の準備を一緒にしましょう。)

B : 네, 알겠습니다.

(はい、分かりました。)

- (38) (職場で同僚同士)

A : 오후에 바쁘세요?

(午後、お忙しいですか?)

B : 안 바쁘네요?

(忙しくないですけど。)

A : 내일 회의가 있는데, 회의 준비 좀 같이 할 수 있어요?

(明日、会議があるけど、会議の準備、一緒にできますか?)

B : 네, 같이 하{ (?) 조/아요 }.

(はい、一緒にやりましょう。)

- (39) (職場の同僚同士)

A : 저녁 모임에 쓸 과자랑 음료수는 어떻게 할까요?

(夜の懇親会で使うお菓子和飲み物はどうしましょうか?)

B : 편의점에 가서 함께 사조/아요.

(コンビニに行って、一緒に買いましょう。)

(37)は聞き手に「一緒に会議の準備をする」ことをお願いする状況であり、行為の実行が話し手の利益になるような場面である。そして、(38)は聞き手のお願い(「一緒に会議の準備をする」)を受け入れる状況であり、行為の

実行が聞き手の利益になるような場面である。このように話し手、あるいは聞き手に利益になる文脈では, 지 (요) の勧誘文は不自然か, 使えても高圧的なニュアンスを帯びる。しかし, 同じ文脈であっても, 通常の勧誘文はそのようなニュアンスが感じられない。

一方, (39)は聞き手の意見求め(「夜の懇親会で使うお菓子と飲み物はどうするか」)に対して, 話し手にとって妥当で望ましいと思われる行為の実行(「コンビニに行って, 一緒に買う」)を提案する状況である。このように行為の実行が利益の面において中立的である文脈では, 通常の勧誘文だけではなく, 지 (요) の勧誘文も自然で, しかも高圧的で恩着せがましいニュアンスも感じられない。このような지 (요) の勧誘文も, 지 (요) の命令文と同様に意味的には「～는 것이 어때 (요)? (～たらどうですか) /～는 것이 나올 것 같은데 (요) (～ほうが良いと思いますけど)」に置き換えることができる(以下「提案調の勧誘文」とする)。

以上のような勧誘文の지 (요) の特徴は, 意志文の지 (요) でも見られる。

- (40) (健康診断の結果を見ながら, 医者と患者が話し合っている)

医者: 건강을 위해서 담배를 끊는 것이 어떻습니까?

(健康のために, タバコをやめたらどうですか?)

患者: 알겠습니다. 끊{ (?) ㄹ / ㄹ습니다. }

(分かりました。やめます。)

- (41) (会社の会議で)

上司: 누가 내일 일본에 출장 좀 가겠으면 좋겠는데, 누구 없습니까?

(誰か, 明日, 日本に出張にちょっと行ってもらいたいけど, 誰かいませんか?)

部下: 제가 가{ (?) ㄹ / ㄹ습니다. }

(私が, 行きます。)

- (42) (職場の同僚同士)

A: 저녁 모임에 쓸 과자랑 음료수는 어떻게 할까요?

(夜の懇親会で使うお菓子と飲み物はどうしましょうか?)

B: 과자는 제가 준비하ㄹ / ㄹ습니다. }

(お菓子は私が用意します。)

以上で確認したように、命令文の지 (요) と勧誘文の지 (요)、意志文の지 (요) は、平叙文の지 (요) の「確かな知識」から拡張した点において、共通している (36, 43参照)。

6. 終わりに

本稿では、現代韓国語の終結語尾지 (요) を取り上げ、意味・機能間の関連性を分析し、次のような点を述べた。

- ・平叙文の지 (요) は、基本的に「既に知っている内容 (知識表明)」を表す。
- ・平叙文の지 (요) が表す「知識 (表明)」は、確信度の観点からすると「確かな知識」を表す場合もあり、「不確かな知識」を表す場合もある。
- ・「確かな知識」あるいは「不確かな知識」を述べ立てる平叙文の지 (요) が、語用論的な要因が加わることによって、次のように他の文の類型 (疑問文、命令文、勧誘文、意志文) へ拡張すると考えられる。

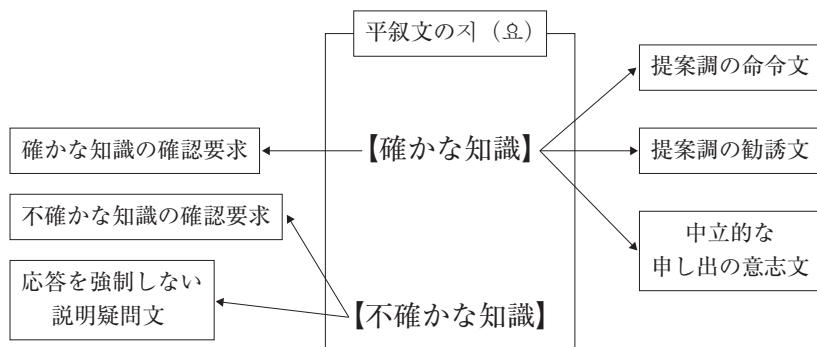


図 1. 現代韓国語の終結語尾지 (요) の拡張関係図

注

- 1 韓国語の終結語尾は、基本的には文の類型 (叙述・疑問・勧誘・命令など) 及び対者敬語法 (丁寧体・普通体) を表し分ける意味・機能を持っている。
- 2 韓国語のローマ字表記はYale式に従う。
- 3 韓国語の対者敬語法は해라体, 하게体, 하오体, 합쇼体, 해체, 해요体のように、6等級に分かれる。해라体, 하게体, 해体は「普通体」に当たり、하오体, 합쇼体,

해요체는「丁寧体」に当たる。そして, 해・해요체는, 主に打ち解けた場面で使われる「非格式体」であるのに対して, その他の対者敬語法は主にかしこまった場面で使われる「格式体」である。特に, 해요체는, 해体に「丁寧さ」を表す終結助詞요を付けて作られる。本稿では해요体と해体を総称して해(요)体と表記する。そして, 以下では形態素の前後にほかの形態素の承接を表す「-」を省略して示す。

- 4 以下, 韓国語の表記のみ示す。
- 5 その他に, 지(요)の基本義を「推定」と規定した장석진(1973), 「主観的な想念」と規定した고영근(1976), 「提案と判断」と規定した大江(1958)などもあるが, これらの分析に対する問題点などは先行研究で十分指摘されたと考えられるので, 本稿では取り上げないことにする(한길2004: 131-132, 장경희1985: 108-117, 정유남2009: 214-224参照)。
- 6 例文の出典は最後の頁参照。出典のないのは作例である。
- 7 副詞「물론(もちろん)」と「아마(たしか, たぶん)」については서정수(2005), 손남익(1995)参照。
- 8 「叙法副詞」の定義は工藤(2000)に従う。
- 9 副詞「당연히(当然)」については서정수(2005), 손남익(1995)参照。
- 10 「疑い」と「問いかけ」については, 安達(2002b)と仁田(1991)など参照。
- 11 一般に, このような現象を「傾き(bias)」と呼ぶ。詳細は安達(1999)と宮崎(2005)参照。
- 12 한길(2005)では, 反語文は主に対話的な場面で用いられると指摘している。

参考文献

- 고영근(1976)「現代國語의 文體法에 대한 研究」『語學研究』12-1, pp.17-53.
- 박재연(1999)「국어 양태 범주의 확립과 어미의 의미 기술: 인식 양태를 중심으로」『국어학』34, pp.199-225.
- 박재연(2006)『한국어 양태 어미 연구』國語學會, 太學社.
- 서정수(2005)『한국의 탐구32 한국어의 부사』서울대학교출판부.
- 손남익(1995)『국어부사연구』박이정출판사.
- 손현선(1998)「이른바 반말 종결 형태의 양태적 연구」『국어 문법의 탐구』4, 태학사, pp.251-304.
- 신선경(2001)「「-군(요)」와 「-네(요)」의 쓰임에 대한 연구-서술 시점의 차이를 중심으로-」『형태론』3-1, pp.69-84.박이정.
- 윤석민(2000)『현대국어의 문장종결법 연구』집문당.
- 이익섭·채완(2000)『국어문법론강의再版』學研社.
- 이익섭(2005)『한국의 탐구33 한국어 문법』서울대학교출판부.
- 이현희(1982)「국어 종결 어미 발달에 관한 관견」『국어학』11, pp.143-164.
- 장경희(1985)『現代國語의 樣態範疇研究』塔出版社.

- 장석진 (1973) 「話의 生成의 研究」 『語學研究』 9-2 (別卷), pp.1-149.
- 정유남 (2009) 「반말체 종결어미 [-지]와 [-어]의 서법성 연구」 『국어의 시제, 상, 서법』
홍종선의, 박문사, pp.183-250.
- 한길 (2004) 『현대 우리말의 마침씨끝 연구』 역락.
- 한길 (2005) 『현대 우리말의 반어법 연구』 역락.
- 한길 (2006) 『현대 우리말의 형태론』 역락.
- 安達太郎 (1999) 『日本語の疑問文における判断の諸相』 くろしお出版.
- 安達太郎 (2002) 「第1章 意志・勧誘のモダリティ」 『モダリティ』 宮崎和人他, くろし
お出版, pp.18-41.
- 安達太郎 (2002a) 「第2章 命令・依頼のモダリティ」 『モダリティ』 宮崎和人他, くろ
しお出版, pp.42-77.
- 安達太郎 (2002b) 「第5章 質問と疑い」 『モダリティ』 宮崎和人他, くろしお出版,
pp.174-202.
- 大江孝男 (1958) 「On the Indicative Ending in Modern Korean」 『言語研究』 (日本
言語学会) 34, pp.1-40.
- 工藤浩 (2000) 「第3章 副詞と文の陳述的なタイプ」 『モダリティ』 森山卓郎他, 岩波
書店 pp.161-234.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房.
- 仁田義雄 (2000) 「第2章 認識のモダリティとその周辺」 『モダリティ』 森山卓郎他,
岩波書店, pp.79-159.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版.
- 宮崎和人 (2002) 「第 6 章 確認要求」 『モダリティ』 宮崎和人他, くろしお出版,
pp.203-227.
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』 くろしお出版.
- 宮崎和人 (2005) 『現代日本語の疑問表現』 ひつじ書房.
- 森山卓郎 (2000) 「第1章 基本叙法と選択関係としてのモダリティ」 『モダリティ』 森
山卓郎他, 岩波書店, pp.1-78.
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (2000) 『日本語の文法 3 モダリティ』 岩波書店.

例文出典と略号-

『2007年度21世紀世宗計画最終成果コーパス』

미란 [미란], 마법성의 수호자, 나의 깨끗한 들깨 [들깨], 경마장에서 생긴 일 [경마],
로암미들의 겨울 [겨울], 황만근 이렇게 말했다 [황만근], 식물들의 사생활 [사생활],
나비, 봄을 만나다 [나비], 마지막 연애의 상상 [상상], 너를 보면 살고 싶다 [너를],
사랑은 사슴처럼 [사슴], 전우치는 살아있다 [전우치], 춤에 부치는 노래 [노래]